

冬の安全運転

「スリップ事故に注意」

十二月に入り、そろそろ雪の季節。ドライバーにとって、冬道ほど厄介なものはありません。冬道でスリップしてヒヤツとした経験を持つ方も多いでしょう。重大な事故につながる冬道でのスリップ事故には注意が必要です。そのためには、冬道の安全な運転法を身に付けましょう。

タイヤ交換

雪が降るとまず、冬用タイヤへの交換が必要です。交換前には、タイヤの摩耗の度合いも確認してみましょう。タイヤが摩耗していると、ブレーキを踏んでから止まるまでの距離が伸びるので危険です。

凍結路面に注意

冬用のタイヤだからといって、夏道と同じ感覚で走ることにはできません。冬道の滑りやすさは、乾燥した道路より四から八倍も伸びるといわれています。ですから、追突事故防止のためには、スピードをおさえること、車間距離を夏の二倍以上とることが必要です。路面状況をつかむため、試しにブレーキを踏んでみて、滑りやすさを確認しておくことも一つの方法です。特に滑りやすいのは、路面が凍結したときです。路面が滑り

やすい時間帯は、凍っていた路面が融けだす朝方と融けていた路面が再び凍り始める日没後です。路面が凍結しやすい場所は、交差点の手前、坂道、橋の上、トンネルの中と出入口及び道路が日陰になっている部分などです。そのような場所では特に注意しましょう。



滑らないためには

車を早く止めようと夏道と同じ感覚でブレーキを一度に強く踏み

込むと、車輪がロックしてスリップしてしまいます。これを防ぐためにも、「ソフトブレーキ」を心がけましょう。

☆ソフトブレーキ

- ①ブレーキの踏みしろの半分ぐらいで踏みとどめ、
- ②これを停止するまで維持し、
- ③タイヤを最後まで転がして制動する。

また、冬道では、急ブレーキを避け、停止するときは、早めに余裕を持ってブレーキを踏みましょう。特にカーブや下り坂では、その手前から十分に減速してください。

降雪時の運転

雪が降っているときに運転する場合は、自分の存在を知らせるためにライトを点灯しましょう。また、吹雪で視界が利かない場合は、勘に頼って走行するのは非常に危険です。十分にスピードを落とし、場合によっては、車を止め、視界が良くなるまで待機することも必要です。そのときは、追突されないために、ブレーキを踏んで、ストップランプをつけてください。

雪は障害物です

除雪された雪が道路脇に高く積み上げられている道路では、横断する歩行者や交差点で進入する車の発見が遅れます。このようなところでは、対向車に注意しながら、できるだけ道路の中央寄りをスピードを落とすとして走行しましょう。また、路上駐車は、交通の妨げになるばかりでなく、危険ですので絶対にやめましょう。

ゆとりを持つて

冬の事故原因で多いのが、あせりや急ぎの気持ちからの操作ミスによるものです。心にゆとりを

みんなで 飲酒運転 ゼロに



年末は忘年会など、お酒を飲む機会が多くなります。お酒を飲んでも、「このぐらいなら大丈夫」、「すぐそこまでだから」、「明日車を使うから」と軽い気持ちから運転しがちです。しかし、飲酒後は、認知力、判断力は確実に低下していて、重大事故につながります。また、日本酒三合、またはビール大びん三本飲んだ後、身体の機能が平常に戻るまで七から八時間もかかるといわれます。この気が緩む時期に強い意志を持って飲酒運転をやめましょう。また、周りのかたも飲んだ人には運転させないようにしましょう。



持つて運転することが最も効果的な事故防止法です。出かけるときは、時間に余裕を持って出発するようにしましょう。